

高次脳機能障害ってなに？



ヒューマンライブラリー **COZY 対話カフェ** 生きている図書館

読者役(聞き手)5名募集中!
どなたでもご参加いただけます
オンライン参加も可能

参加費無料
お茶・お菓子付き

第1回

9月7日(土) 午後1時30分～3時30分

「本」役(語り手)

・後藤 究さん(高次脳機能障害のある当事者)

「継続の絶対性と瞬間の絶対性」

・貝梅ひとみさん(家族)

「～私たちの身に起きた事～ ー高次脳機能障害奮闘記ー」

※ 生きにくさの人生話をそれぞれ20～30分間お聞きし、約15分間対話します

【会場】居場所cocokara (前橋市古市町563-5 三協ハイツ201)

※ 新前橋駅 西口より徒歩9分

※ 近隣に有料駐車場あり

地図→



【申し込み・問い合わせ先】

ぐんま脳損傷者地域拠点プロジェクト

gunma-koujinou@nifty.com

027(226)5514 不在時は留守電に吹き込んでください

申し込みQRコード→



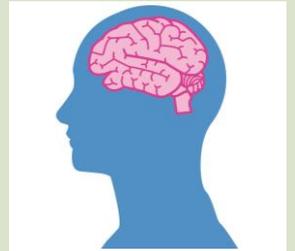
ヒューマンライブラリーを用いたCOZY対話カフェは、社会の中で高次脳機能障害のある人や家族、関係者などが感じる孤立感・スティグマを減らすことを目的に、赤い羽根共同募金会の助成を受けて行っています



高次脳機能障害とは

高次脳機能障害は脳の損傷によって起こります。脳梗塞・クモ膜下出血・脳出血・脳腫瘍などの病気や交通事故・転落・転倒・スポーツ等による脳外傷などが主な原因です。子どもから高齢者まであらゆる年代の人に起こります。

脳損傷後に「やる気がでない」「怒りっぽい」「集中できない」「同時に複数のことをできない」「片側を見落としやすい」「忘れっぽい」「言葉がでにくい」「行き当たりばったりになりやすい」などの行動が現れたら、高次脳機能障害かもしれません。脳のどの部分に、どのくらいの大さの傷があるのかによって一人ひとり異なります。



高次脳機能障害は外見からわかりにくいので、医療機関でも見逃されてしまうことがあります。学校や職場でも「性格のせい」と誤解されることがあります。しかし、症状に合った適切なりハビリテーションと安心できる環境があれば、3年、5年、10年と時間はかかっても少しずつ回復していきます。



ヒューマンライブラリー（生きている図書館）とは

ヒューマンライブラリー（生きている図書館）は、偏見を持たれやすい人、生きづらさを抱えたマイノリティの立場にある人が、その体験を語り、対話を通じて相互理解を深めていく催しです。唯一のルールは、本を傷つけないことです。

2000年にデンマークで始まり、現在は世界100か国以上に広がっています。

ヒューマンライブラリーの条件（最大公約数）は、以下の通りです。

- ① 対話は「本」役 1人に対して「読者」は1～5人程度の少人数であること。
- ② 「本」の語りは、生きにくさの自己開示を含む人生話であること。
- ③ 対話時間は、30分程度の短時間であること



最近では、多様な市民の対話の機会としても、活用されるようになっていきます。

令和6年度 ヒューマンライブラリーCOZY対話カフェ開催予定

日時	場所	「本」役
9月7日（土） 午後1時30分～3時30分	居場所cocokara （前橋市古市町563-5 三協ハイツ201）	・高次脳機能障害のある当事者 ・家族
10月27日（日） 午後1時30分～3時30分	群馬県社会福祉総合センター301会議室 （前橋市新前橋町13-12）	・高次脳機能障害のある当事者 2名
11月16日（土） 午後1時30分～3時30分	居場所cocokara （前橋市古市町563-5 三協ハイツ201）	・高次脳機能障害のある当事者 ・支援者
12月7日（土） 午前10時～12時	コーヒーハウス シープ （前橋市千代田町2丁目7-14 二階）	・高次脳機能障害のある当事者 ・支援者



ぐんま脳損傷者地域拠点プロジェクトとは

[当会HP→](#)



ぐんま脳損傷者地域拠点プロジェクトは、前橋市古市町で居場所cocokaraを運営しています。居場所cocokaraは、生活や仕事の困りごとを気軽に相談できる場、解決策を一緒に考える場、高次脳機能障害に対するリハビリテーションを行う場です。

ヒューマンライブラリーCOZY対話カフェを通して、ぜひ高次脳機能障害のことを知ってください。

ぐんま脳損傷者地域拠点プロジェクト会長 繁野玖美

